

2021 年度

授業概要

科目名	言語聴覚障害概論			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科1年	通年	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕							
言語聴覚士の仕事について興味と関心を広げる。							
〔授業全体の内容の概要〕							
言語聴覚障害の分類と各障害の特徴・診断の基本を理解し、その臨床方法の基礎を学ぶ。また、言語聴覚士法を理解し、言語聴覚士の役割、倫理について考察する。							
〔講師の実務経験〕							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士の仕事や対象とする障害を知ることで、言語聴覚療法の全体像を理解する。 ・言語聴覚士の業務の流れを理解する。 ・言語聴覚士の職業倫理を学ぶ。 ・言語聴覚療法に関わる関連制度を学ぶ。 							
回数	講義内容						
1	言語聴覚士とは何か（言語聴覚士仕事、言語聴覚士法）						
2	言語聴覚士とは何か（歴史、資質、将来）						
3	言語聴覚士の働く現場						
4	コミュニケーションとは、コミュニケーション過程						
5	言語の諸側面						
6	話すためのメカニズム						
7	話すことの障害						
8	聴くためのメカニズム						
9	聴くことの障害						
10	書くことの障害、読むことの障害、言語聴覚士養成カリキュラム						
11	言語聴覚士の活動（評価・診断）						
12	言語聴覚士の活動（評価・診断、訓練）						
13	言語聴覚士の活動（訓練）						
14	言語聴覚士の活動（相談と環境調整）						
15	まとめ						
16	チーム・アプローチ						
17	クリティカル・パス、EBM（EBP）						
18	職業倫理①						
19	職業倫理②						
20	職業倫理③						
21	パターナリズムとインフォームド・コンセント						
22	関連制度（社会保障制度）						
23	障害者基本法						
24	障害者手帳						
25	介護保険						
26	STの関わる障害についての概要①						
27	STの関わる障害についての概要②						
28	STの関わる障害についての概要③						
29	STの関わる障害についての概要④						
30	まとめ						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名				著者名		出版社	
標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版						医学書院	
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】							
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							